

# 情報コーナーに新しい図書が20冊入りました！

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『人生の後半戦、私たちはもっと輝こう！ 女性50代からのキャリアデザイン』	森ゆき著	セルバ出版	2020年	159.6モ オレンジ	仕事、心身の健康維持、人間関係のストレス、介護やお金のことなどに触れ、50代から前向きに、自分の納得できる時間を過ごせるような未来設計をめざす。
『「わたし」のための金融リテラシー』	小島明子、橋爪麻紀子、 黒田一賢著	金融財政事情 研究会	2020年	338コ アカ	女性がお金について学ぶことの意義やライフイベントで知っておくべき国の制度等を解説し、女性が自身のキャリアを拓くために必要な知識を提供する。
『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版] —持続可能な生活のためのワーク・ ライフキャリア—』	伊藤純、斎藤悦子編著	ミネルヴァ書房	2021年	365イ キン	生産と消費、労働環境、家計、所得格差と貧困などの問題をジェンダーの視点から捉え、諸課題に対して主体的に考え、対応する知識と力を身につけるために編まれた一冊。
『新しい労働世界とジェンダー平等』	浅倉むつ子著	かがわ出版	2022年	366.3ア ミズイロ	「ケア労働」を社会的に不可欠な労働として尊重し、そこに働く人々の環境と賃金を重視する「新しい」労働世界。格差と貧困を是正するジェンダー平等政策について提案する。
『働く母親と階層化 仕事・家庭教育・食事をめぐるジレンマ』	額賀美紗子、藤田結子著	勁草書房	2022年	366.3ヌ ミズイロ	階層的に異なる背景を持つ女性たちへのインタビューを分析し、女性が働きながら育児をすることのジレンマと多義性を当事者視点から明らかにする。
『家事は大変って気づきましたか？』	阿古真理著	亜紀書房	2022年	367.2ア ミドリ	大変さが見えづらく、軽んじられてきた家事やケア。明治から令和までの社会や歴史を視野に入れ、家事に対する人々の意識の変遷を読み解き、負担を軽くし家族でシェアする道を探る。
『ハイヒールを履かない女たち 北欧・ジェンダー平等社会の作り方』	あぶみあさき著	かがわ出版	2022年	367.2ア ミドリ	「働くのにヒールがあったら動きにくい」。平らな靴で働く女性が多いノルウェーで、ジェンダー平等という理想に向かって少しずつ社会を変えていく市民や政治家の様子を報告する。
『ルポ コロナ禍で追いつめられる女性たち 深まる孤立と貧困』	飯島裕子著	光文社	2021年	367.2イ ミドリ	コロナ禍において、シングルマザーや単身女性、エッセンシャルワーカーやステイホームできない女性たちを襲う様々な困難や制度上の綻び、背景にある構造的な問題などを浮き彫りにする。
『フェミニスト・シティ』	レスリー・カーン著 東辻賢治郎訳	晶文社	2022年	367.2カ ミドリ	フェミニズム地理学の視点をもとに、女性にまつわる都市の様々な問題を取り上げ、フェミニズムの理念が実現された街の必要性と可能性を考える。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『ママにはならないことにしました —韓国で生きる子なし女性たちの悩みと幸せ』	チェ・ジウン著 オ・ヨンア訳	晶文社	2022年	367.2ジ ミドリ	「子どものいない結婚生活は不完全」「子どもを望んでいないという自分勝手な女扱い」…。韓国社会で、子どもを持たずに生きる女性たちの本音とは。
『少子化と女性のライフコース』	永瀬伸子、寺村絵里子編著	原書房	2021年	367.2ナ ミドリ	多様化する女性の就業や生活について、社会学、経済学、年金研究などの視点から女性のライフコースの現在を描き、今後求められる政策等について問題提起する。
『未来をひらく男女共同参画 —ジェンダーの視点から—』	西岡正子編著	ミネルヴァ書房	2016年	367.2ニ ミドリ	男女共同参画社会を創るための課題を、ジェンダーの概念とセクシュアリティ、ジェンダーと歴史・法律・家族・教育・メディアなどのテーマごとに論じる。
『ジェンダーのとびらを開こう 自分らしく生きるために』	村田晶子、森脇健介、 矢内琴江、弓削尚子著	大和書房	2022年	367.2ム ミドリ	自分らしさ、多様性、歴史・制度、家族、身体、仕事、自己表現、学校をテーマに、ジェンダーについて高校生・大学生が一緒に考えていくように書かれた探究の本。
『デンマーク発 ジェンダー・ステレオタイプ から自由になる子育て 多様性と平等を育む10の提案』	セシリエ・ノアゴー著 さわひろあや訳	ハウレーカ	2022年	372.3ノ ギン	性別にまつわる固定観念や思い込みを意識し、批判的に向き合いながら、「男らしさ、女らしさ」ではなく、子どもが自分らしく生きていけるために、大人にできることは何なのかを考える。
『女性兵士という難問 —ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』	佐藤文香著	慶応義塾大学 出版会	2022年	392サ アカ	戦争・軍隊をジェンダーの視点で考察し、女性兵士が果たすことを求められてきた役割とその効果を検証する。
『「女の痛み」はなぜ無視されるのか？』	アヌシェイ・フセイン著 堀越英美訳	晶文社	2022年	498フ オレンジ	アメリカにおいて、性差別と人種差別によって女性が健康を損ねているという問題を、データ、記事、証言をもとに執筆したルポルタージュ。
『新しい声を聞くぼくたち』	河野真太郎著	講談社	2022年	778.2コ チャイロ	ポストフェミニズム状況における男性性について、映画や漫画等のコンテンツから、母息子関係、イクメン、年齢性と男性性の問題など様々な主題を通して考察する。
『THE GIRLS 性虐待を告発したアメリカ女子体操選手 たちの証言』	アビゲイル・ベスタ著 牟礼晶子、山田ゆかり訳	大月書店	2022年	781.5ベ オレンジ	米オリンピック体操チームの医師による、30年近くに渡った女性アスリートへの性暴力。その背景と原因、被害者のサバイバーとしての生き方をレポートする。
『LGBTだけじゃない！わたしの性 ジェンダー・アイデンティティ』	佐々木掌子監修	国土者	2022年	K367サ オレンジ	自分や周りの人を大切にするために知ってほしいジェンダー・アイデンティティの基本について、イラストを多用しわかりやすく解説する。
『考えたことなかった』	魚住直子著 西村ツチカ絵	偕成社	2022年	K913ウ ミドリ	ある日、不思議な猫に声をかけられた中学生の颯太が、ジェンダーバイアスと、どこかでつながりあった社会のしくみについて気づき、考え始める物語。